

## 2) 医療機関における助産ケアの質と移動の関係 (山崎, 斉藤)

本日配布資料参照

### 料参照

- ・ 質評価の合計点。最低 63 点, 最高が 252 点。得点が低いほうがレベルが高い。
- ・ 年齢が移動の方が高い。移動したほうがよいのか, しないほうが良いのか, 年齢によるものなのか?
- ・ 移動なしだけでみると, 中が落ちる。つまり能力が高い。しかし 15 年以上たつとマンネリ化するから, 落ちるのだらう。そこで, ずっと残る人と, キャリアアップを目指して移動する人に分かれるのではないか。
- ・ 移動ありだけでみると, 得点は比較的变化なくフラット。
- ・ 移動できる人と, できない人の違いではないか。移動する人ではなくて, できる人。移動できる人は自分ではできると考える人なのか。
- ・ 年齢が高くなるほど, 得点下がる。移動ありのほうが年齢高い。移動は関係ないということも考えられる。年齢の影響が大きいのではないか。補正は重回帰分析で可能。
- ・ 今回は, 項目ごとに対象者数は異なる。総計のサンプルは, 全項目回答者のみ。

### ②就業場所変更と質の評価

資料3参照

- ・ このデータは得点が高いほうがレベルが高い, できることを示す。
- ・ 尺度化が目的ではないが, 現在質評価の見直しを行っているため, 主成分分析や  $\alpha$  係数を求める。

### 今後の方向

- ・ 得点の分布をおさえた上でどう分析するかが変わるので, まず分布をみる。データには分布の箱ひげ図を示すとばらつきも見えて良い。
- ・ 今回の資料は経験年数を固定した資料。移動なし・ありを固定し, 経験年数の違いでみる。
- ・ 移動なし群の中で, 経験年数ごとに群わけして比較する。
- ・ 移動あり群の中で, 経験年数ごとに群わけして比較する。
- ・ 各項目ごとに1から4を出して, 分析する。ウイルクソン分析にする。
- ・ 差のあるデータだけを取り上げるのではなくて, すべてを出して, 差があると思っていたのに差がなかったとか, そういう面白さがあるだろう。

## 3) 助産師の勤続年数に関する分析と移動の方向性(遠藤・小林)

資料

### 4参照

- ・ 2004 年までは事実であるが, その先の推計はグラフが書いてくれる。
- ・ 計算上は, この数字でしかない。
- ・ 他の方法は, 新卒助産師, 定着率の向上(維持)によって積み上げによっている。
- ・ 免許はもっているけど, 働いていないグループについて積み上げしかない。

### 今後の方向

- ・ 増加層(1999→2004)を適応させて, 2009 年になるか?
- ・ 今後の移動の方向性を示す。
- ・ 診療所と病院の出産のグラフと就労者数の割合のグラフを作成し, 問題点は偏在であることを示す。

## 4) 今年度の報告書

3つの視点で報告書を作成する。

## 5) 学会での発表のパワーポイント

本日配布資料参照

今回の発表タイトル:「病院における中堅助産師の就業実態と職場移動の可能性

6分に収まるように, 内容を洗練させ, インパクトがでるようなグラフを作成し発表する。